

# 全木連時報

10月25日(木曜日)  
(第595号) (毎月25日発行)  
平成19年(2007年)

発行所  
社団法人 全国木材組合連合会  
編集長 後藤隆一  
東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215  
URL http://www.zenmoku.jp



木材産業シンボルマーク

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

定価 年500円

「全木連時報」の購読料は年会費に含まれています。



## 第42回全国木材産業振興大会開催

### 「築け「木づかい」新時代 木材の利用で進む美しい森林づくり」 高松市に全国から参集

全木連と全木協連が主催する第四十二回全国木材産業振興大会は、「築け「木づかい」新時代 木材の利用で進む美しい森林づくり」をメインテーマに掲げ、十月十八日に高松市の「香川県県民ホール」で開催された。担当は全木連四国支部、開催地担当は社団法人香川県木材協会、香川県木材産業協同組合。第一部の大会議事では、別掲の大会宣言を満場一致で決議した。第二部は、愛媛大学農学部長の泉英二氏による記念講演。第三部の表彰式では、退任団体長表彰、木材産業功労者表彰、協同組合事業功績者表彰が行われた。この後、懇親会に移り、盛況のうちに閉幕した。

### 第一部 大会議事

国歌斉唱の後、俊成薫愛媛県木材協会会長の開会のことばがあり、続いて全員で物故者に黙祷を捧げた。開催地を代表して樋口浩良四国支部長・香川県木材協会会長が歓迎挨拶を述べた。次いで、主催者を代表して、大会会長の庄司燈太郎全木連会長が別項の挨拶を行った。

### 宣言決議

- 一、建築物の安全・安心への取り組みに応え、JAS製品を始め、信頼性の高い木材の普及・定着に全力を挙げよう
- 一、川下産業・消費者と連携し、地

来賓祝辞では、農林水産大臣(代理) 島田泰助林野庁林政部長、国

目次
一面 第四十二回全国木材産業振興大会を高松市で開催 大会宣言を決議し早期実現を図る
二面 記念講演 功労者を表彰大会会長挨拶
三面 栄えの受賞者 木材受給見通しを修正
四面 景況調査

土交通大臣(代理) 越海興一木造住宅振興室長、真鍋武紀香川県知事、大西秀人高松市長から木材産業を支援・激励する言葉が述べられた。来賓紹介、祝電披露の後、大会宣言決議案を北岡浩高知県木材協会会長が提案し、満場一致で決議した。これを受けて、庄司大会会長が決意表明を行い、業界自らの取り組みはもとより、関係方面へも強く要請して、決議内容の早期実現を図る決意であり、そのための支援、協力をお願いしたい旨を述べて、第一部を終了した。

- 一、違法伐採に対する取り組みを前進させ、合法木材の普及と供給、原産地表示を推進しよう
- 一、木材産業の構造改革をさらに推進し、中小企業対策の充実と山村の活性化を図ろう
- 一、森林吸収源対策等を着実に推進するための安定的な財源を確保しよう

## 第二部 記念講演

記念講演は、愛媛大学農学部長の泉英二氏が「二十一世紀をどう造るのか―木材を使う新しい意義―」と題して講演した。

## 第三部 表彰式

まず、並木瑛夫全木協連会長が挨拶し、次いで、来賓の林野庁長官(代理) 島田泰助林野庁林政部長から祝辞が述べられた。

表彰では、まず、前大会以降の退任団团长に対して全木連会長、

全木協連会長から感謝状が贈られた。次いで、木材産業功労者の表彰が行われ、林野庁長官から感謝状、全木連会長から表彰状が贈られた。次に、協同組合事業功績者及び優良組合に対し、林野庁長官から感謝状、全木協連会長から表彰状が贈られた。

最後に、受賞者を代表して香川県の枝園仁氏が謝辞を述べて、表彰式を終了した。

次いで、次期開催地を代表して、大石駿四郎九州支部長が同支部の参加者とともに登壇して挨拶し、次期大会への参加を呼びかけた。

最後に、山田喜三郎徳島県木連会長が閉会のことばを述べて閉幕した。

## 二 挨拶

### 大会会長 社団法人 全国木材組合連合会

会長 庄司 橙太郎

本日ここに、第四十二回全国木材産業振興大会を、地元の関係者の絶大なご尽力により、ここ高松市においてかくも盛大に開催できますことは、大きな喜びであり、誠に光栄であります。また、公務ご多端のなか、農林水産大臣、国土交通大臣、林野庁長官、香川県知事、高松市長はじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り厚く御礼申し上げますとともに、全国各地からご参集いただいた多数の会員、友好団体の皆様には、心から感謝申し上げます。

ここ香川県は、古くから四国地域の玄関として栄えてきており、「金比羅山」「屋島」「小豆島」など全国に名だたる多くの史跡・景勝地に恵まれた地域であります。木材産業につきましては、県内、四国各地のヒノキ・スギのほか、恵まれた港湾を背景とした木材の加工・流通により、県内、四国一円の木材需要に重要な役割を果たしており、今後ともその発展が期待されています。さて、我が国の経済は、政府は本年度の国内総生産の実質成長率を二・〇パーセント程度と見通して

いますが、このところ、一部に弱さがみられるものの依然として拡大基調で推移しています。しかしながら、地域間、業種間の景況格差は縮小の気配はなく、特に木材業界にありましては景気回復にはほど遠いという状況が続いていると認識しています。

昨年の大会以降の木材業界を取り巻く状況は、住宅着工戸数の順調な推移、木材輸入環境の変化等により、業況の改善が期待されていきましたが、本年度に入ってから住宅着工戸数は昨年に比べて減少に転じています。特に、この夏以降は大幅着工減となつています。長い間苦しんできている木材産業、地域の森林・林業は、依然として深刻の度が増していると言わざるを得ません。

昨年、「新たな森林・林業基本計画」や「住生活基本計画」が閣議決定され、この中で林業及び木材産業再生の実現のための木材産業の競争力強化や消費者重視の新たな市場形成と拡大、また住宅への地域材利用の促進などの政策推進の方向が明らかにされています。政府におかれましては、これらの計画に即して木材産業に対する各般の施策の充実強化に取り組んでいただい

ところで、このような中にありましても重要なことは我々業界自身が多様な困難を乗り越えて将来を展望した構造改革をいかに取組んでいくかであると認識して

木材は快適で健康的な暮らしに必要な不可欠なもの、そして地球温暖化防止の切り札として重要な役割を果たすものであります。木材利用を促進する最大の担い手である木材産業が、新しい時代を切り拓いていくには、これまで以上に木材の需要者・消費者を重視して木材加工体制の整備や製品技術開発などに取組み、安心して使ってもらえる品質性能の優れた木材製品をきちんと安定供給する体制を構築することが必要です。特に建築関係の諸制度が大幅に改正・制度化されたことを踏まえ、JAS製材品など品質・規格、産地などを明確に表示した木材、乾燥材の供給体制の整備は喫緊の課題であります。

さらに、木材利用の推進については、多くの関係者の努力により木材の良さなどの認識については徐々に広まりつつあるものの、実需の増につながらる各種のPR努力はまだ不十分と言わざるを得ません。我々が「木づかい運動」推進の中心となつて、関係者の知恵、協力も得ながら、わかりやすい木材利用推進を粘り強く取り組み、さらに、木質バイオマス利用につきましても積極的に推進していくことが必要であります。

また、違法伐採問題に対応するため、昨年から合法木材の供給体制整備に取り組んでいますが、これにつきましては多くの関係者の大変なご努力により、短い期間にもかかわらず合法木材を供給する認定事業者数は六千を超えるなど着実な実績を上げています。今後、ユーザの皆様から真に信頼される合法木材を品質・量ともきっちり供給していく必要があり、いよいよ「正念場」という認識の下に業界挙げての取り組みをしっかりと行つていく所存であります。

木材産業の活性化と木材需要拡大につきましては、行政による財政的、制度的支援はどうしても必要であります。そのために、森林吸収源対策等を着実に推進するための安定的な財源の確保等について、全木連としても関係団体等と力を合わせて必要な取り組みに全力を尽くして参る考えであります。木材業界は、未だ明るい展望をなかなか見出しにくい状況が続いてはいますが、今後とも業界一丸となつてこの苦境を乗り越えてまいりたいと思っておりますので、ご列席の関係行政機関、関係団体の皆様の一層のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。 終わりに、本日、栄えある表彰を受賞される方々には、長年にわたるご精進とご労苦に対し深甚なる敬意を表しますとともに、心からのお祝いを申し上げます。

# 第42回全国木材産業振興大会 栄えの受賞者(敬称略)

## 前大会以降退任 団体長表彰

全木連会長感謝状

宮城 渋谷正志

秋田 栗生澤 節

神奈川 小林弘昌

奈良 故 田口太望

岡山 中塚淳一郎

徳島 高木健男

チツプ連 笹森 篤

プリントカラー 大越修治

全木協連会長感謝状

宮城 渋谷正志

秋田 栗生澤 節

神奈川 小林弘昌

奈良 故 田口太望

岡山 中塚淳一郎

徳島 高木健男

鹿児島 横小路喜代治

## 木材産業功労者表彰

林野庁長官感謝状

北海道 塩見敦則

群馬 鐘田貴一郎

埼玉 坂東正一郎

東京 名倉敬世

東京 田中敬皓

石川 山崎覚治

岐阜 旗 政廣

静岡 佐野勝治

愛知 半田想一郎

岡山 光延道正

広島 大之木伸一郎

愛媛 林満茂

高知 岡部利秀

鹿児島 今吉光雄

全木連 鴨下孝一

全木連会長表彰状

北海道 松原正和 高橋秀樹 伊賀宏 佐々木恒雄

岩手 川邊三千年

宮城 渥美陽一

秋田 戸村英雄

山形 相原吉弘

福島 江黒功

茨城 戸澤一衛

栃木 福富信男

群馬 小井土文雄 橋本英樹

埼玉 池田稔

千葉 伊藤昭三郎 齋藤亘弘

山梨 中加武

東京 天野文夫 平岩堅一 小石川勉 廣木俊一 橋本尚久

堀貫功 江間亮三

富山 山崎要四郎

石川 太田文夫

福井 嶋田博

長野 中島武東 古根卓司

岐阜 柳作男 森川志郎

静岡 佐野福司 守屋辰馬 飯田文之 浅場諄一 梅原忠雄

愛知 丹羽耕太郎 上田茂夫 山口清孝

三重 浅野正 紀平明良

滋賀 山田洋 白井正一郎

大阪 伊奈岡芳一

兵庫 上田棟次郎

和歌山 片山隆雄

島根 清水一成

岡山 頭心登 古谷一善

広島 高橋秀信 宮迫敏明 藤居道正 谷本真

山口 吉野一

徳島 佐々木和仁

香川 松高昭廣 川西洋一

愛媛 成川尚 石村孝敏 成瀬昭親 梶原重雄

高知 市川長俊

福岡 樋口義弘

熊本 歳嶋一成

宮崎 中村憲一

鹿児島 柴立鉄彦

全木連 下西昭昌 田中正史

プレカット 櫻井秀弥

パーク堆肥 青木良光

## 協同組合事業功績者 及び優良組合表彰

林野庁長官感謝状

北海道 相田嗣郎

秋田 高嶋昭二

千葉 秋葉与平

東京 (新東京) 長浦慎一

東京 (木場製材) 村井信義

富山 山田幸志

岐阜 遠藤一美

三重 吉川貞之助

兵庫 野村昌弘

和歌山 早田頼司

香川 枝園仁

愛媛 松田恒生

熊本 原田龍三

宮崎 小野裕

全木協連会長表彰状

宮城 佐々木二三男

秋田 高塚純一

山形 田嶋誠

茨城 林玲 飯島隆太郎

栃木 岸一 大橋正男

埼玉 小山征司

千葉 和泉厚美 山口隆弘

東京 (問屋) 山崎良市 小林勇

東京 (材商) 上山晃央

東京 (新東京) 矢崎実

東京 (木場製材) 大堀雅之

東京 (原木) 菊地邦夫

富山 松井洋司

石川 折高啓一

福井 湯上巖

長野 宮澤源泉 柳沢英治

岐阜 都竹雅之 桑原和男

静岡 金原忠夫 松澤隆

愛知 内山登志雄 大塚幹夫

三重 青木喜彦

兵庫 毛利叡暉 大垣清明

和歌山 森教二

島根 篠原憲

岡山 大越秀樹 山下豊

広島 森本浩之 寺坂訓治

徳島 近清美智子

香川 和田光行

高知 五藤駿介 高橋英博

福岡 井上新二

熊本 永山芳宏

宮崎 藤元絹代

鹿児島 田中信一

## 建築着工の大幅な落ち込みの影響緩和のためのセーフティネット等が措置される

建築物の安全性確保を図るための建築基準法等の一部を改正する法律の関連で、全木連は特に、法律施行と業界との関連について、五月七日に林野庁、国土交通省に改正基準法の施行に伴い、現場で混乱を招かないよう所要の措置を講ずるよう要望するとともに、対策本部を設置し、九月には機会を捉えて建築確認の円滑化等について申し入れをしてきた。七月、八月の新設住宅の着工戸数の減少は年率換算で百万戸を大きく下回る大幅な減少となっており、これに伴い資材の発注量の減少、木材価格の低迷などにより、木材産業の経

営にも影響を与えている。このようなことから、国土交通省は、平成十九年十月九日に改正建築基準法の確認申請手続の円滑化を図られるよう、実務者に対する情報提供等、更にその一層の徹底を図るとともに、建築関連中小事業者の資金繰りを支援するため、①政府系金融機関等に特別相談窓口を設置②セーフティネット貸付の適用③既往債務の返済条件緩和する措置を講じた。木材関係については、素材生産業者、木材加工・流通事業者など建築資材に関連する全ての事業者が対象となっている。

景況調査＝全木協

19年9月分集計表 ( )内は実数

〔流通部門〕

モニター数125 回答数95 回収率76%

当月の状況

販売量	増加29% (28)	変わらず40% (38)	減少31% (29)
仕入量	増加20% (19)	変わらず46% (43)	減少34% (32)
販売価格	上昇9% (8)	変わらず72% (67)	下降19% (18)
仕入価格	上昇13% (12)	変わらず56% (52)	下降31% (29)

来月の見通し

販売量	増加37% (35)	変わらず43% (41)	減少20% (19)
仕入量	増加28% (26)	変わらず49% (46)	減少23% (22)
販売価格	上昇6% (6)	変わらず76% (71)	下降18% (17)
仕入価格	上昇11% (10)	変わらず67% (62)	下降22% (20)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	17% (14)	56% (47)	27% (23)
南洋材	15% (12)	67% (55)	18% (15)
北洋材	18% (15)	60% (49)	22% (18)
国産材	10% (9)	72% (63)	18% (16)
建材	15% (12)	59% (47)	26% (21)

乾燥材取引の 頻度	増加	変わらず	減少
	22% (19)	76% (66)	2% (2)

〔製造部門〕

モニター数148 回答数111 回収率75%

当月の状況

販売量	増加28% (29)	変わらず45% (47)	減少27% (28)
仕入量	増加24% (25)	変わらず48% (50)	減少28% (29)
販売価格	上昇5% (5)	変わらず69% (72)	下降26% (27)
仕入価格	上昇20% (21)	変わらず58% (59)	下降22% (23)

来月の見通し

販売量	増加41% (43)	変わらず40% (41)	減少19% (20)
仕入量	増加31% (30)	変わらず49% (50)	減少20% (20)
販売価格	上昇5% (5)	変わらず78% (80)	下降17% (18)
仕入価格	上昇11% (11)	変わらず71% (72)	下降18% (18)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	16% (8)	57% (29)	27% (14)
南洋材	15% (6)	75% (30)	10% (4)
北洋材	20% (9)	51% (23)	29% (13)
国産材	15% (13)	62% (55)	23% (21)

プレカットの動向

受注後、加工ま での待ち時間	1ヵ月以内	1ヵ月	1ヵ月以上
	81% (17)	14% (3)	5% (1)

林野庁は、九月二十七日に木材需給対策中央協議会を開催し、今年三月に策定した平成十九年の木材需給見通しの見直しを行い、今年の需給量について当初より、三百四万㎡下方修正し、前年比二・八%減の八千四百三十五万六千㎡とする見通しを策定した。

木材需給見通しを  
下方修正  
需給量は  
8435万6千㎡  
林野庁・  
需給対策中央協

木材(用材)の需給見通し

単位：千㎡、( )内は前年比%

		19年見直し	19年当初見直し	18年見込み
需 要	総数	84,356 (97.2)	87,396 (100.7)	86,791 (101.1)
	製材用	32,307 (97.8)	32,806 (99.3)	33,032 (100.4)
	合板用	12,705 (92.6)	13,827 (100.8)	13,720 (109.0)
	パルプチップ用	35,896 (97.3)	37,425 (101.4)	36,907 (98.1)
	その他用	3,448 (110.1)	3,338 (106.6)	3,131 (113.3)
供 給	総数	84,356 (97.2)	87,396 (100.7)	86,791 (101.1)
	国産材	17,917 (101.7)	17,936 (101.8)	17,617 (102.6)
	丸太	17,780 (101.7)	17,791 (101.8)	17,480 (102.6)
	林地残材	137 (100.0)	145 (105.8)	137 (95.8)
	輸入材	66,439 (96.0)	69,461 (100.4)	69,174 (100.4)
	丸太	11,311 (93.1)	11,362 (93.5)	12,152 (100.3)
	製材	12,756 (94.7)	13,370 (99.3)	13,464 (101.2)
	合単材	7,619 (89.2)	9,168 (107.4)	8,537 (107.4)
	チップ	24,545 (99.8)	24,923 (101.3)	24,594 (97.4)
	パルプ	7,138 (93.0)	7,675 (100.0)	7,675 (100.3)
その他	3,070 (111.5)	2,963 (107.6)	2,753 (114.7)	

# お役に立ちます 林業・木材産業信用保証

造林・育林、素材生産、木材・木製品製造  
薪炭生産、林業種苗生産、きのこ生産、木材卸売業  
に必要な事業資金の債務保証を行います。

皆様の経営にぜひこの制度をご活用下さい。

独立行政法人 農林漁業信用基金 (林業部門)

副理事長 加藤 鐵夫

〒101-8506 東京都千代田区内神田1-1-12 (コープビル11階)

TEL 03-3294-5581 FAX 03-3294-5595

ホームページ://www.affcf.com